



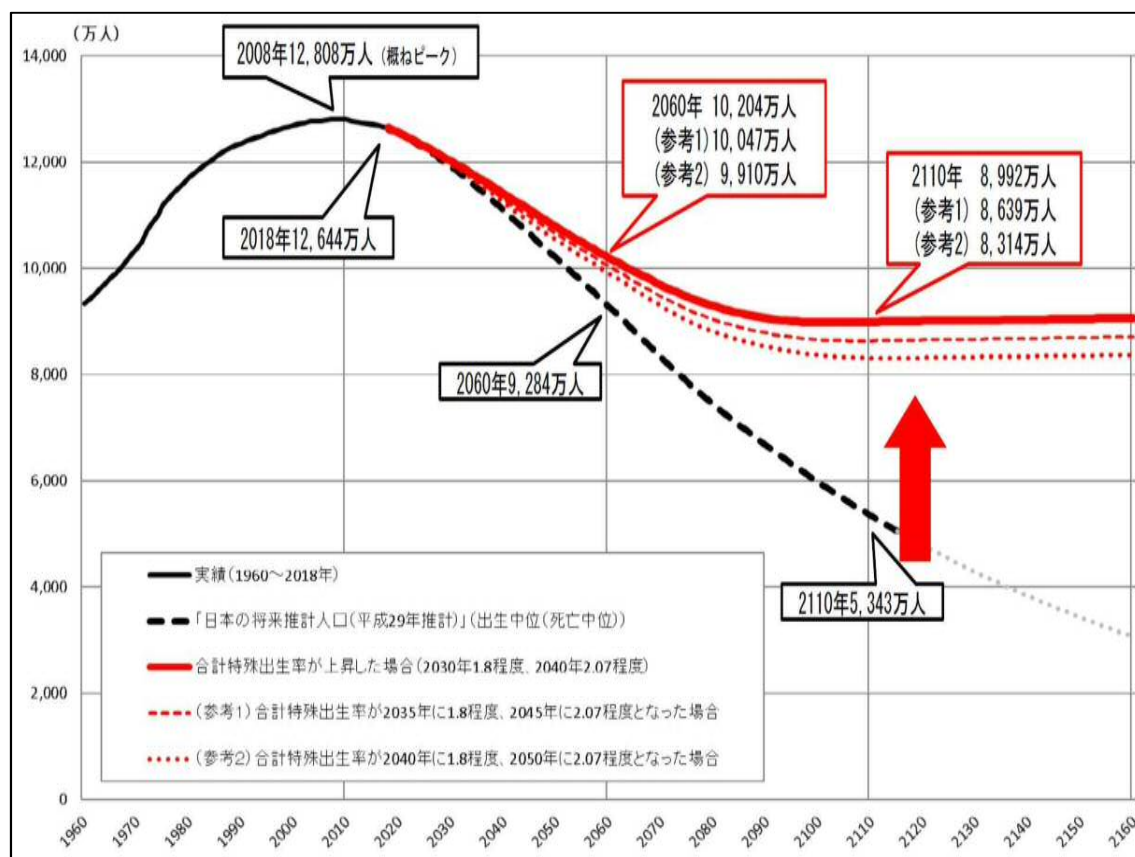
人口の現状分析と将来展望

(人口ビジョン参考資料)

令和元年10月 政策企画課作成

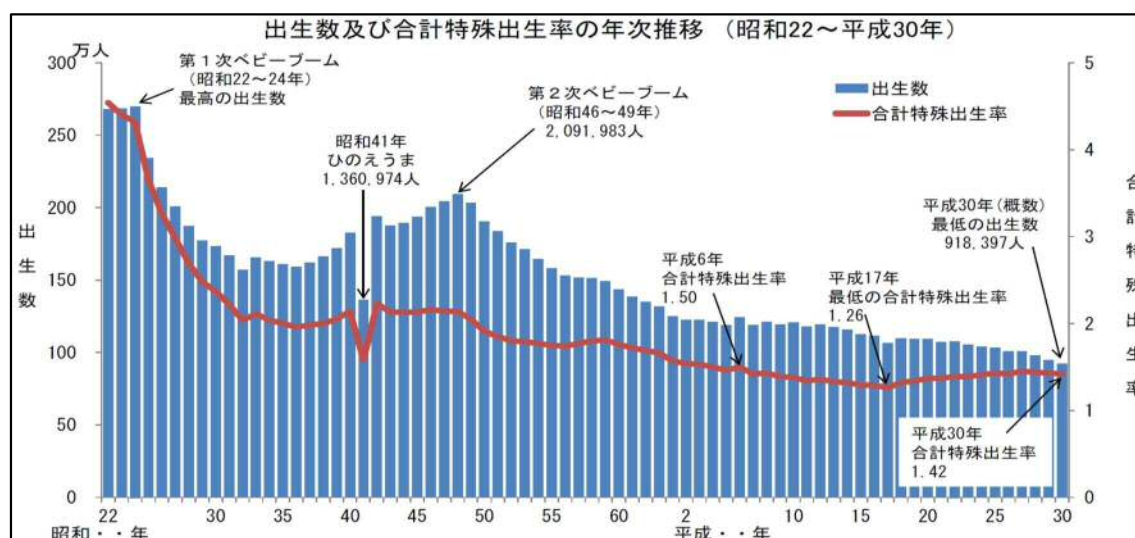
人口の現状分析と将来展望

人口の推移と長期的な見通し



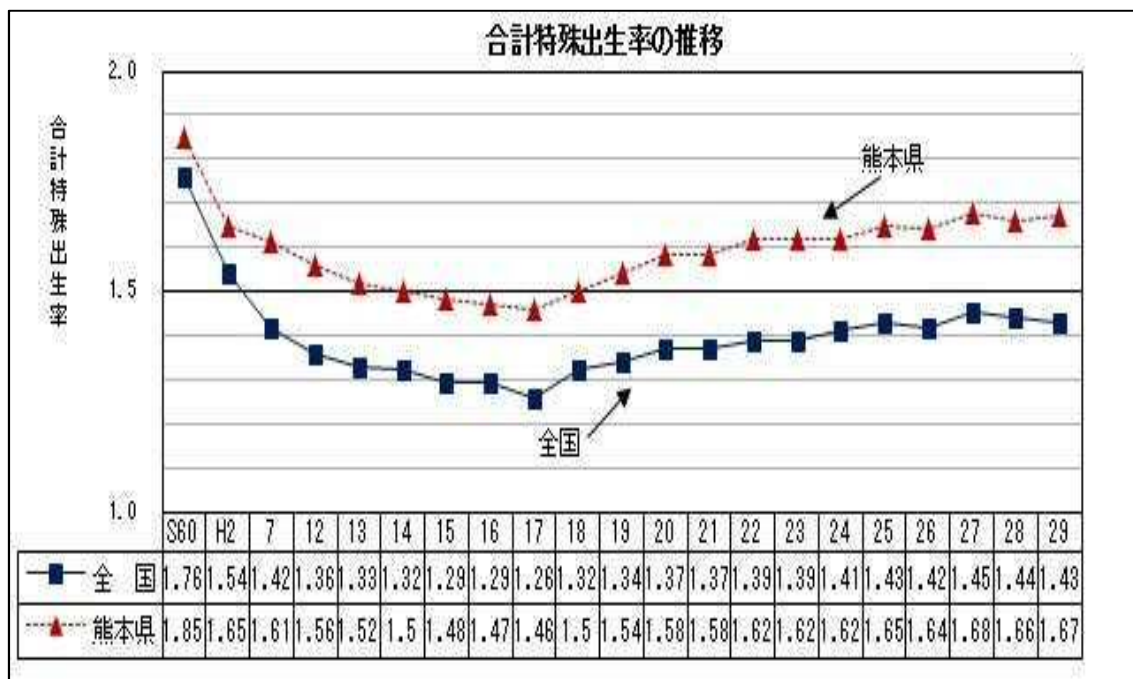
- 総人口：2008年をピークに減少局面。1億2,644万人(2018年)
- 生産年齢人口：7,785万人(2014年)→7,545万人(2018年) ▲240万人
- 就業者：6,371万人(2014年)→6,664万人(2018年) ±293万人
- 出生数：100.4万人(2014年)→92.1万人(2018年)
- 2060年の総人口は約9,300万人まで減少する見込み

出生数・出生率の推移



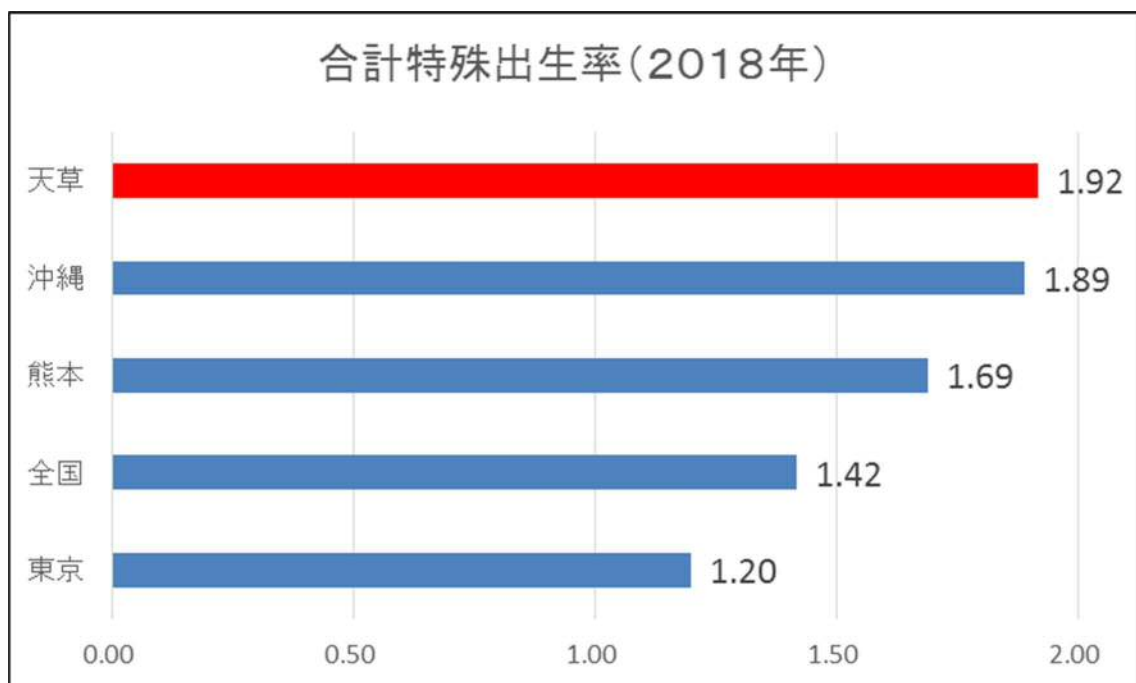
- 出生数・出生率は、1970年代半ば(S48)から長期的に減少傾向。出生数は、2016年(H28)以降100万人を下回り、毎年減少。

合計特殊出生率【熊本県】

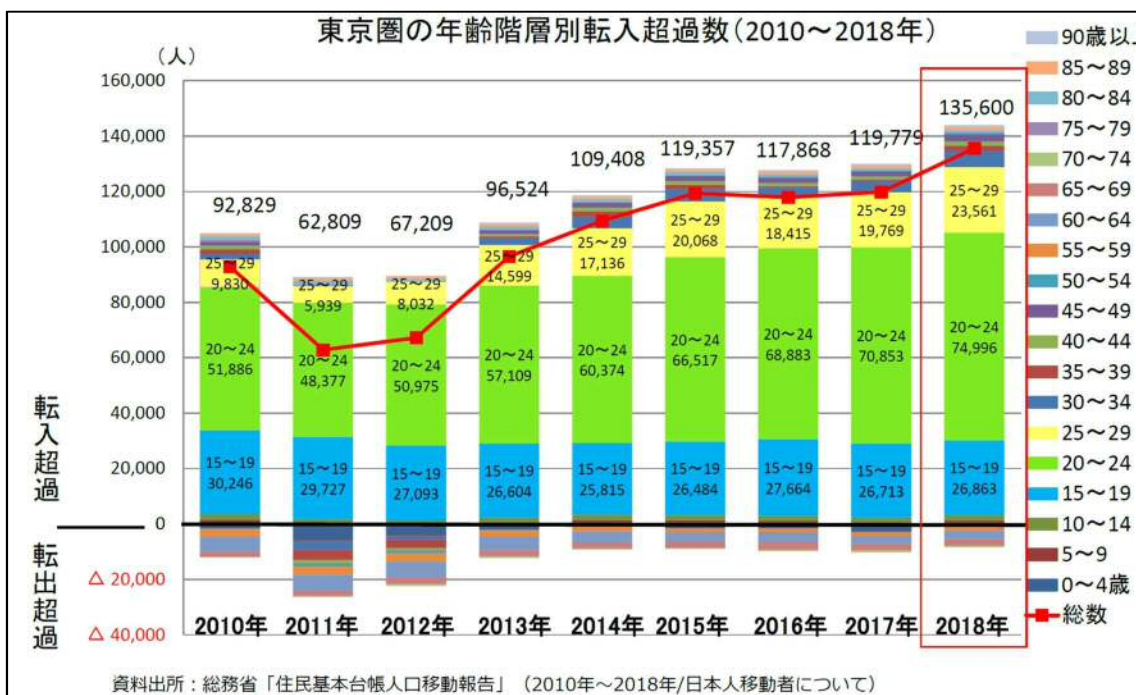


- 全国よりも高い水準で推移
- 近年はほぼ横ばい状態

合計特殊出生率の比較

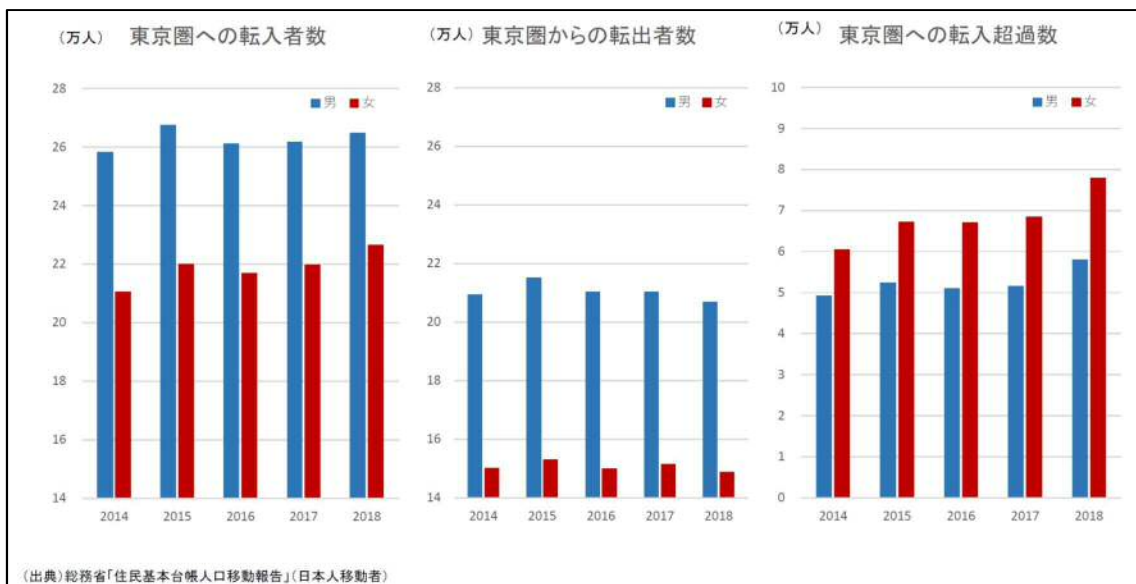


東京圏への転入超過数（2010年～2018年、年齢階級別）



- 転入超過数は、13.6 万人【転出 35.5 万人、転入 49.1 万人】（2018 年）
- 東京圏の人口は、3,658 万人(2018 年)。全人口の約 3 割が集中。
- 東京圏への転入超過数の大半を 10 代後半、20 代の若者が占めており、大学等への進学や就職が一つのきっかけになっているもの考えられる。

人口移動の状況（東京圏・男女別）

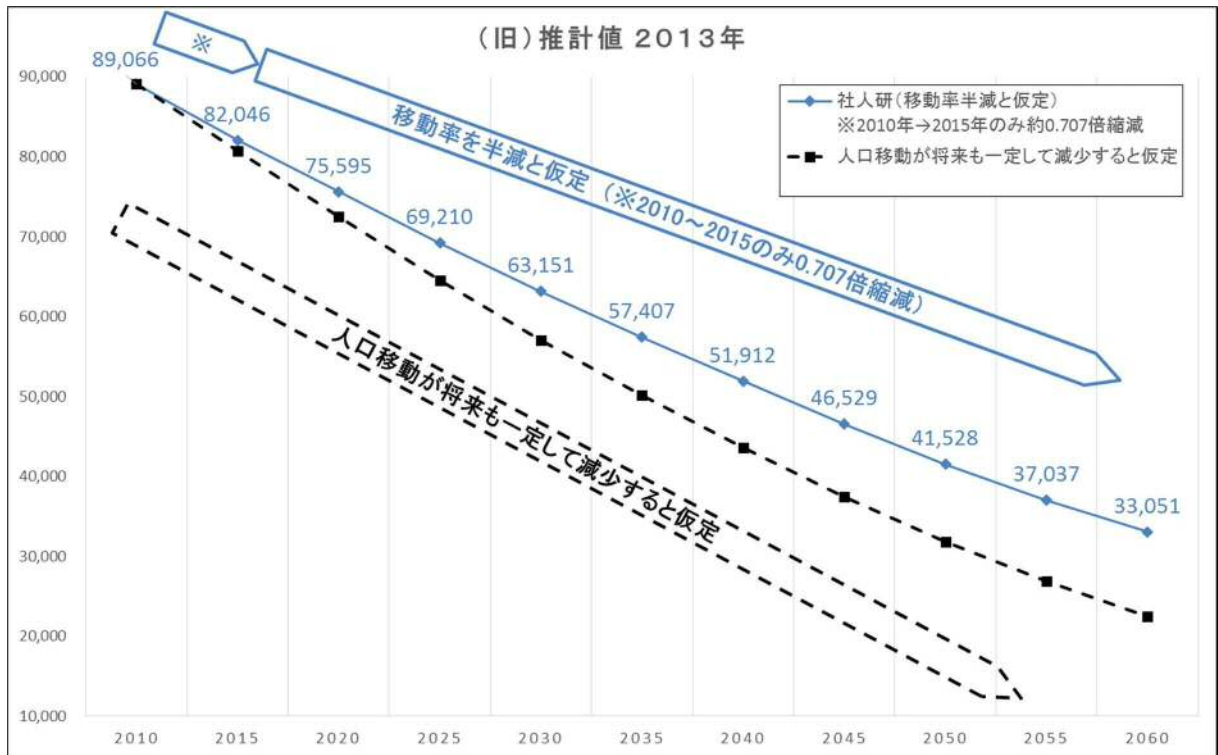


- 女性の「転出者数」が少ないことから、「女性は東京圏へ転入して地方へ戻らない」傾向が示唆される

将来人口推計における推計の方法と長期的な見通し

前回（2013 年）

2005→2010 年に観測された純移動率が 2015→2020 年にかけて半減となる仮定

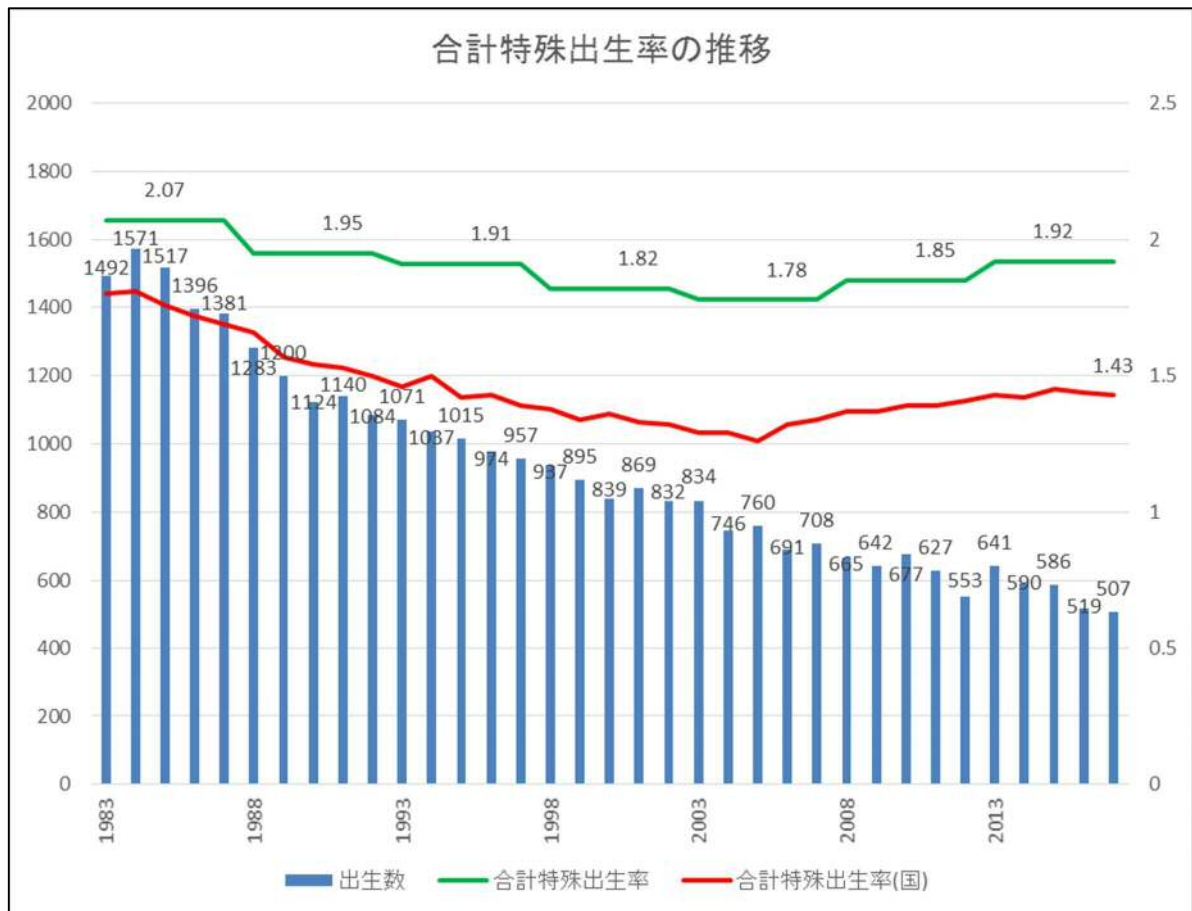


今回（2018 年）

2010→2015 年における人口移動傾向を将来も一定として推計
(若年層の純移動率が前回推計に比べ転出超過の傾向が強まる過程を採用)



出生に関する分析



分析及び結果の整理

- 合計特殊出生率は、全国よりも高い水準で推移。2008(平 20)年ごろから上昇に転じ、過去 20 年間で最高(1993(平 5)並)の水準
- 一方、出生数は減少傾向が続いており、過去最低の水準